



## 徳島森林管理署に

## 那賀川治山事業所を開設

徳島県那賀町阿津江地区での新たな民有林直轄治山事業を実行



看板を掛ける森林整備部長（左）と徳島署長



開設された治山事業所の事務所（那賀町和喰郷）

徳島署では、本年度から、徳島県那賀町阿津江地区において、民有林直轄地すべり防止事業を行うため、「那賀川治山事業所」を開設し、五月二〇日、那賀町中央公民館にて事業所の開所式典を開催しました。

この阿津江地区では、平成一六年の台風一〇号による大規模な山腹崩壊が発生し、その後激甚災害の指定を受け、これまで徳島県において復旧工事を行ってききましたが、崩壊斜面上部に大規模な地すべりブロックが存在することが新たに判明したことや、激甚災害の指定が一九年度で終了することなどを踏まえ、徳島県から林野庁に対し、民有林直轄地すべり防止事業の着手について要望が出され、新規事業として採択がなされ、本年度から当署において事業所を開設し、事業実行に当たることとなったものです。

開所式典は、那賀町との共催で開催し、地権者をはじめ地域の関係者、徳島県農林水産部長、県議会議員、町議会議員、四国森林管理局森林整備部長など約五〇名が出席。当署長が「安全で安心して暮らせる国土づくりとしての治山事業に、全力で取り組みるので、今後も、地権者をはじめ関係各位の理解と協力をお願いしたい。」とのあいさつの後、当署治山課長と那賀川治山事業所主任から、事業の概要説明などを行いました。

（徳島署）



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

# 美しい森林づくりの推進

## 平成二〇年度四国森林管理局事業概要

〈企画調整室〉



マスコミ各社への記者発表

四月二三日記者発表を行った、平成二〇年度四国森林管理局事業概要に

ついて紹介します。

国土の保全や水源かん養に加え、近年、地球温暖化防止や生物多様性の保全の関心が高まるなど、森林に対する国民の期待が多様化しています。

また、本年は京都議定書の第一約束期間の初年であり、森林吸収源対策を着実に進めていくことが大切です。

このため、四国森林管理局においては、森林に対する多様なニーズに応えつつ、「美しい森林づくり」を推進し、民有林・国有林連携のもと、次の五つの柱に沿って事業展開を図ることとしています。

### 一、一〇〇年先を見通した森林づくり

森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、地域の特徴やニーズに応じ、五〇年サイクル

で植栽・伐採を繰り返す従来の森林づくりに加え、一〇〇年先を見据えた、針広混交林や複層林等の多様な森林を目指した森林整備を行います。

### ①公益的機能発揮のための森林施業の推進



複層林施業地

具体的には

①公益的機能発揮のため、土の保全や自然環境の維持等を目的に施業を行う森林を段階的に拡大しており、四国の国有林野面積のうち公益林の割合は平成一〇年の三〇%から平成二〇年には九四%となっています。平成二〇年度も公益的機能の発揮に向けた森林施業を行い、「美しい森林づくり」を推進します。

### ②森林吸収源対策の取組



整備された森林

となる森林の増加に向け、森林整備を着実に進めていくことが求められています。

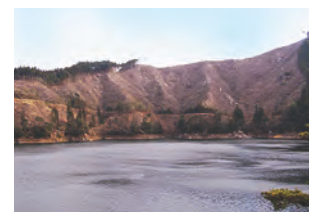
四国の国有林の人工林約二二万ヘクタールについては、平成二〇年度についても、五、六〇〇ヘクタールの除伐・保育間伐を行います。今後も個々の森林の状況、施業履歴をチェックしながら効果的に森林整備を進め、森林吸収量確保に努めます。

### ③「四国山地緑の回廊」(石鎚山地区)モニタリング調査

平成一五年三月に野生動物の多様性の保全を目的に「四国山地緑の回廊」を設定しました。緑の回廊においては、野生動物の生息、移動状況等を把握するため、平成一五年からモニタリング調査を実施しています。

平成二〇年度は、石鎚山から瓶ヶ森にかけて、自動撮影カメラによる野生動物の成育状況の撮影、ラインセンサスによる鳥類調査等を行います。

### ④皆伐跡地における針広混交林化等の取組



植栽予定箇所の遠景

森林の多面的機能の発揮に向け、多様な森林づくりを推進するため、広葉樹の

植栽等による針広混交林化に取り組めます。また、高知県香美市内の国有林において、通常の植栽本数より少ない苗木での試験植栽や無花粉スギ・少花粉スギの試験植栽等を行い、植生・成長状況等のデータ収集を行います。

### 二、流域の保全と災害による被害の軽減

流域全体の保全のための治山対策を、民有林治山事業等と連携することにより効果的に推進し、災害を防ぐことに加え、被害の軽減(減災)に向けた取組を推進します。

### ①新たな民有林直轄地すべり防止事業

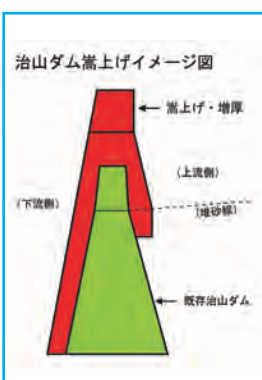
徳島県那賀町阿津江地区では、



被災地遠景

平成一六年の台風一〇号により、大規模崩壊が発生し、徳島県による復旧対策が進められてきました。これまでの調査により大規模な地すべりブロックが判明したことから、徳島県の要請を受け、地域の安全・安心を早期に確保するため、那賀町に新たな治山事業所を設置し、平成二〇年度から二九年度の二〇年間、総工費五三億円の規模で直轄地すべり事業を実施します。

### ②既存の治山施設の防災機能の強化



近年、局地的な集中豪雨により、土石流などによる人的被害を伴う激甚な山地災害が発生しています。このような中、公共投資を効果的・効率的に行う観点から、満砂状態となっている既存の谷止工の機能強化を図るために、嵩上げ・増厚を実施し、土砂流出防止を図ります。

### ③民有林と連携した流域保全対策の推進

国有林と民有林が近接している地区においては、一体的に整



子どもによる森林づくり宣言

各々が主体となり、各々が積極的に取り組んでいる活動報告、意見交換

① 四国の森林づくり子どもサミット  
 四国森林管理局と四国4県による「四国の森づくりに関する共同宣言」の取組の一環として、四国の森づくり活動を積極的に推進している学校等を「四国山の日賞」として表彰しています。この「四国山の日賞」の森林環境

備を行うことにより、事業効果の早期発現と効果的な事業実施を図ることが出来ます。このため、愛媛県との連携のもと、今治市玉川町において、平成二〇年〜平成二四年度の五年間に総事業費約八億円の「特定流域総合治山事業」を実施します。  
 三、様々なニーズに応えた森林づくりと利用  
 森林の有する多面的機能や木材利用の意義に対する理解と関心を高めるため、森林環境教育の機会や、活動フィールドを広く提供し、国民参加の森林づくりを推進します。  
 具体的には



森林の達人集キャラクター

は、従来の森林教室や植物観察にと  
 たって  
 実践に当  
 培教育の  
 環境教育の  
 森林環

等を行い、子どもの視点から見た四国の森林づくりへの提言を行います。  
 ② 「森林の達人集」の本格的実施と拡充等

教育分野  
 受賞校等  
 が主体とな  
 各々が積極  
 的に取り組  
 んでいる活  
 動報告、  
 意見交換

「生きる力」を育む多様なプログラムが求められております。四国森林管理局では昨年度、枝や葉など自然の材料を用いた遊び、森林をフィールドとした活動を得意とする名人達を「森林の達人」としてデータベース化(高知県版「三五名名録」)しました。本年は、それぞれの達人の持つノウハウ等を広く国民に情報発信するとともに、徳島県版「森林の達人」のデータベース化を行います。  
 ③ 文化的遺産への貢献「祖谷のかずら橋」架け替え資材確保の森の設定

徳島県三好市にある「祖谷かずら橋」は、奥祖谷二重かずら橋は地域の文化遺産として大切に保存され、三年〜五年毎に架け替えが行われています。近年、橋の材料となるシラクチカズラが減少し



愛媛県河のバイオトレ

は、森林浴、自然観察等の森林とのふれあいの場として「レクリエーションの森」を設定

ていることから、三好市長と徳島森林管理署長の間で「祖谷の森」づくり活動に関する協定を締結しました。本年度より国森林内においてシラクチカズラの植栽を行うなど、資源の安定的確保と育成を進めていきます。  
 ④ 「レクリエーションの森」アップ

学識経験者をはじめとする専門家の検討委員会を設け、箇所数の見直し、レクリエーションの森を管理経営する体制の活性化が必要などの提言を頂いたことから、平成二〇年度はこれら提言についてフォローアップを実施してまいります。

してきます。近年、利用者のニーズが、みどころ情報の提供等ソフト対策を重視したものと変化していることから、平成一七年から平成一九年の三年間にリフレッシュ対策を進めてきました。対策の検討に当たっては、



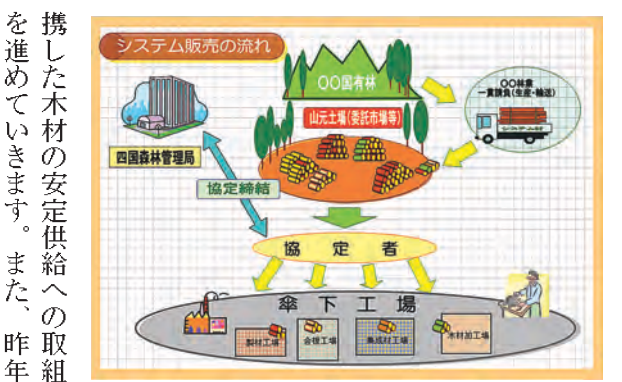
地域材発見ツアー

国産材の活用を促進する

四、国産材の利用拡大を軸とした林業・木材産業の再生  
 資源の充実、加工技術の向上等をチャンスととらえ、川上と川下が連携し、大規模需要者のニーズに対応し得る国産材の安定供給を推進します。  
 具体的には  
 ① 地域材利用促進事業の実施

② 国産材の安定供給  
 国産材の安定供給を図るため、平成一九年度に全国、地域ブロック、都道府県の各レベルにおいて「木材安定供給協議会」が設立されました。四国森林管理局としても木材供給可能量情報を提供するなど、民有林・国有林が連

図るためには、エンドユーザーや木材市場、加工施設などの関係者が発信する情報、ニーズを的確に把握し、それらを搬出樹種の決定などに反映する必要があります。このため、エンドユーザーなどを対象とした「地域材利用促進のためのシンポジウム」や地域材を使った施設にふれる「地域材発見ツアー」に取り組みます。



携した木材の安定供給への取組を進めていきます。また、昨年度に引き続き合板・集成材・製材工場などの大口需要者へ合板・ラミナ・間柱用等に直接販売(システム販売)を行うこととしていきます。  
 五、国有林と民有林の連携  
 民有林と一体となった森林整備、木材の安定供給、国有林を活用した技術研修や森林環境教育を行うことにより、「美しい森林づくり」を推進します。具体的には  
 ① 「美しい森林づくり推進国民運動」への取組  
 平成一九年に「美しい森林づくり推進国民運動」がスタートし、「伝えたい木の文化、残したい美しい森」をキャッチフレーズに、全国各地で様々な取組が

民有林と一体となった森林整備、木材の安定供給、国有林を活用した技術研修や森林環境教育を行うことにより、「美しい森林づくり」を推進します。具体的には  
 ① 「美しい森林づくり推進国民運動」への取組  
 平成一九年に「美しい森林づくり推進国民運動」がスタートし、「伝えたい木の文化、残したい美しい森」をキャッチフレーズに、全国各地で様々な取組が